

「Art Hack Day 2018」最優秀作品決定！ 展覧会を3月16日(金)～18日(日)に開催

にっぽんか がくみらいかん

日本科学未来館(略称: 未来館、館長: 毛利衛)は、Art Hack Day 2018 実行委員会と共同でハッカソン「Art Hack Day 2018」を開催し、3月11日(日)の審査会で最優秀作品ほか5点の優秀作品を決定しました。今回のハッカソンでは、「人工生命(Artificial Life = ALife)」をテーマに、61名の参加者が12点の作品を制作しました。最優秀作品には、チーム名「+1」の「Astral Body」が選ばれました。

最優秀作品をはじめ、「Art Hack Day 2018」で制作されたすべての作品を鑑賞できる展覧会を3月16日(金)～18日(日)に開催します。展覧会場の会場では、観客投票で決定されるオーディエンス賞の投票も行い、結果は3月18日(日)に発表されます。また優秀作品の一部は、未来館の常設展示「メディアラボ」で展示する予定です。

ぜひ、貴媒体でご取材、お取り扱いいただけますよう、お願い申し上げます。



最優秀作品「Astral Body」



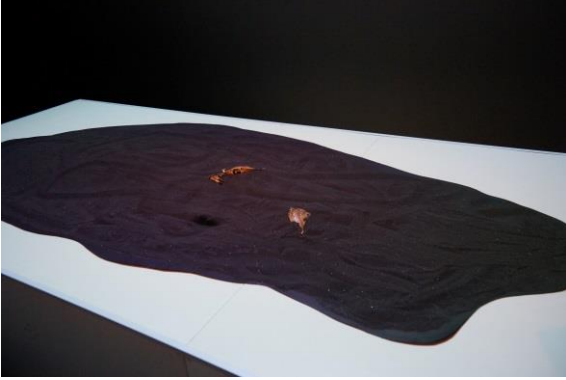
審査員へのプレゼンテーションの様子

■ 概 要 ■

- タイトル Art Hack Day 2018 展覧会「Being There — 現れる存在」展
- 展覧会日程 2018年3月16日(金)～18日(日)
- 開催場所 日本科学未来館 7階 イノベーションホール、スタジオ
- 主催 Art Hack Day 2018 実行委員会、日本科学未来館
- 共催 ALIFE Lab.
- 助成 アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 審査員 池上高志氏(東京大学大学院 総合文化研究科教授)、
デビッド・オリイリー氏(アーティスト)、和田永氏(アーティスト)

Art Hack Day 2018 実行委員会 実行委員長: 青木竜太氏

一般からのお問い合わせ先	本イベント・取材に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL: 03-3570-9151 / FAX: 03-3570-9150 URL: http://www.miraikan.jst.go.jp/	ヴォロシティ株式会社 (Art Hack Day 2018実行委員会 事務局) Mail: arthackday@volocitee.com
	日本科学未来館に関するお問い合わせ先 日本科学未来館 事業部 展示企画開発課 広報普及担当 TEL: 03-3570-9192 / FAX: 03-3570-9150 Mail: press@miraikan.jst.go.jp

【最優秀賞】

「Astral Body」

+1; 長沼大樹、原田誠史、福澤貴之、福谷和芳、堀修生、山本景子、由比俊哉
砂場の中にある生物の亡骸の周りを、影が動き続ける。その影の痕跡が砂場に残る様子から、気配に現れる生命性を表現した作品です。

制作チームによる作品説明

生命性の本質は、身体ではなく気配に宿っているのではないか。その仮定をもとに、かつて生きていた本物の生物の亡骸と、その生物の動きを再現した影による気配を、同じ「砂場」という空間で比較しました。痕跡を残しながら動く気配を見て、私たちはどこに生命らしさを感じるでしょうか。

審査員 池上高志氏

動いた痕跡から現れる生命感に、生命が持つ「死」という悲しさも併せて詩的に表現されている。生命の捉え方を拡張できる可能性も秘めており、非常によい作品です。

【特別賞】

「sign」

team anima; 村越淳、安藤潤人、小谷祐一郎、上島萌

羽根や針金などのモノのかたまりが壁の上を動いているものの、人が近づいた瞬間にバラバラになって消えてしまう。見えていたモノが、人に反応して消えてしまうことで、その行動に現れる生命性を表現した作品です。

制作チームによる作品説明

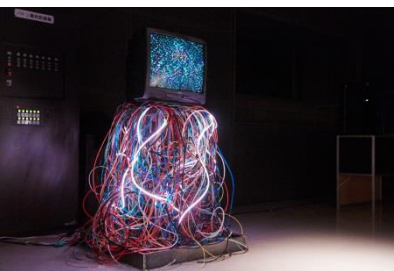
壁の上をなにかが小さくうごめいているが、人の気配を感じるとバラバラと崩れて消えてしまう。目に見える「存在」が「消える」瞬間を目にすることで、意識していなかった「存在」が鑑賞者の中に現れる「生命性」を体験できる作品です。

【審査員賞】

和田永賞

「Singing Dream」

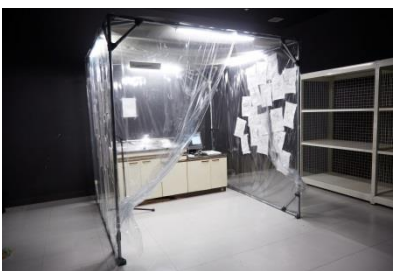
Fictionera



デビッド・オライリー賞

「未確認音源生物」

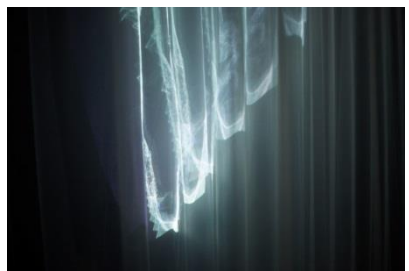
未確認音源生物 特別対策室



池上高志賞

「Floating Shadows」

○



他 7 点を展覧会に展示します。